

# あいち農産物生産流通レポート

平成23年5月号

情報サロン		
・「放射性物質の食品への影響と今後の対応」について	(東京事務所) .....	1
地域トピックス		
・いいともあいちイベントin刈谷ハイウェイオアシス	(西三河農林水産事務所) .....	2
東日本情報		
・首都圏における震災後の青果販売情勢について	(東京事務所) .....	3
西日本情報		
・ミニトマトの袋培地栽培マニュアルを作成しました	(農業総合試験場) .....	6
フラワーページ		
・「花は心の癒し」東日本大震災の被災者に花を贈ろう	(米村花きコンサルタント事務所 米村浩次) .....	8
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) .....		10
・名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し .....		11
花 き		
・切花・鉢花の5月の見通し(県内市場) .....		23
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2011年2月) .....		27
関連指数	.....	28

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## 「放射性物質の食品への影響と今後の対応」について

東日本大震災に伴う、福島第1原発の放射能漏れ事故をうけて、4月18日(月)に(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所の主催で、「放射性物質の食品影響と今後の対応」と題した緊急シンポジウムが、茨城県つくば市「つくば国際会議場」で開かれました。

国民的に関心の高い今回の事故が、食品に対する影響について、心理的な安心と科学的根拠に基づいた安全が確保されなければならないとの考え方から、正確な情報発信のため、放射性物質の基礎から、食品への影響について紹介されました。

主催した食品総合研究所は、食と健康の科学的解析、食料の安全性確保と革新的な流通・加工技術の開発などの基礎的・基盤的研究を行う機関であります。

今回のシンポジウムには、告知をした初日から応募が400名以上と殺到し、1週間で定員の800名を上回る1,000名以上が応募するという関心の高さで、当日も会場1階の大ホールに入りきれなかった来場者を急遽2階に案内するほどの盛況でありました。

シンポジウムの内容としては、(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門小林泰彦先生より「放射性物質の基礎を学ぶ」と題しての講演、続いて、秋田大学滝澤行雄名誉教授より「食品を通じた放射線の健康影響」と題しての講演がありました。

その後、上記2名に加え、毎日新聞編集委員の小島正美氏、食品総合研究所の川本伸一氏と等々力節子氏の3名を加え、順天堂大学医学部の堀口逸子先生をコーディネーターに「パネルディスカッション」が行われました。

パネラーからは、「専門家の多くは食品への影響について『そんなに恐れるものではない』といているが、一般消費者への噛み砕いた説明(翻訳)ができていないのできめ細やかな説明が必要」との意見が大勢を成しました。

また、会場からも食品企業を中心に多くの質問があり、今回の件に対する対応についての真剣さがうかがわれました。

最後に、食品総合研究所では今後もホームページを通じて、論文の解説等放射線に関する情報を随時発信していくので参考にして欲しい、とのことでした。

シンポジウムの全体の内容(講演要旨)についても食品総合研究所のホームページ(<http://www.nfri.affrc.go.jp/index.html>)に詳しく掲載されているので参考にしてください。

## いいともあいちイベント in 刈谷ハイウェイオアシス

「いいともあいちイベント in 刈谷ハイウェイオアシス」が、平成23年4月1日（金）から3日（日）までの3日間、刈谷市の刈谷ハイウェイオアシス内の「産直市場 おあしすファーム」で開催されました。

会場の刈谷ハイウェイオアシスは、伊勢湾岸自動車道からも一般道からも利用でき、地元の方や遠出の旅行客等さまざまな利用客で賑わうレジャー施設です。

今回のイベントは、愛知県版の地産地消運動である「いいともあいち運動」をより多くの方に知ってもらおうと、西みかわ地産地消ネット推進会議(構成：農協、食品会社、市町村等)での提案を具体化したものです。



産直市場 おあしすファーム

このイベントに賛同していただいた地域の食品会社5社、「(株)まるや八丁味噌」「(株)駄屋銀」「西尾製粉(株)」「お菓子の店 ラコンチュル オカヤス」「(株)ネクスト」が、それぞれ地元で採れた大豆や小麦、抹茶、お米等の素材を生かした特産品を展示、即売しました。

イベント会場を訪れた方々の目を引くよう、いいともあいちのポスターやのぼり旗を「産直市場 おあしすファーム」の周囲や出入り口、売店の店先等各所に配置したほか、いいともあいちのPRチラシを配布しました。

イベントの期間中は、春休みとも重なり、非常に多くの家族連れで賑わうとともに、会場を「産直市場 おあしすファーム」入り口に設置したこともあり、PR効果は高かったと考えています。



特設売場の様子

## 首都圏における震災後の青果販売情勢について

福島第一原子力発電所の被災による放射性物質の影響で、ほうれんそう、かき菜などの野菜が食品衛生法の暫定規制値を超えたため、3月下旬に福島県、茨城県、群馬県、栃木県及び千葉県の一部で出荷制限がかかり、首都圏向け出荷が事実上停止しました。また、規制対象野菜にとどまらず、安全が確認された野菜においても、量販店等からの引き合いが大幅に減少し、茨城県産を中心に価格が急落しました。

今回、東京都中央卸売市場における取扱状況に加え、都内の量販店9店舗における販売価格の動向を調査しましたので報告します。なお、9店舗のうち被災地応援フェアを実施している店舗は3店舗ありました。

## 1 東京都中央卸売市場における取扱状況

## (1) ほうれんそうの動向

出荷規制となった3月21日以降、例年、東京都中央卸売市場における3月下旬の市場シェア(以下、市場シェア)の3割を占める茨城、群馬両県の入荷がなくなり、かわって埼玉県産、千葉県産の入荷が急増し、遠くは福岡県、鹿児島県からも入荷がありました。3月下旬の入荷量は256t(前年対比62%)、卸売単価367円(前年対比76%)となり、全体に低調な取引となりました。

## (2) 茨城県産青果物の動向

東京都中央卸売市場における茨城県産青果物の入荷量及び価格(3月下旬)をみると、昨年と比べて市場シェアが低下した品目は、レタス類、こまつな、にら、みずな、シュンギク、ほうれんそう、チンゲンサイ、おおばなどの葉菜類で、価格も前年対比30~70%となりました。中でもみずなの市場シェアが昨年の90%から64%に、価格は前年対比51%に低下しました。同じくレタスの市場シェアが昨年の57%から45%に、価格は前年対比32%に低下しました。4月に入りチンゲンサイとおおばを除いて価格回復の兆しがみられるようになりましたが、前年の価格には及ばない状況にあります。

この他にキュウリ、セルリー、みつば類、うど、まいたけは市場シェアの低下はみられませんでした。価格は前年対比30~70%となりました。

一方、茨城を代表する野菜であるはくさいは、競合する兵庫県産の入荷が増えたことで市場シェアは下がりましたが、3月下旬の価格はほぼ前年並みでした。

しかし、4月上旬には全体の入荷数量が増えたことから価格を下げる展開となりました。

## 2 量販店における価格動向

### (1) ほうれんそうの動向

埼玉県産を中心に1束147～198円で販売されており、卸売価格と比べて比較的高値での販売でした。旬の時期にもかかわらず、比較的销售数量が少ない店舗が目立ちました。

### (2) 茨城県産青果物の動向

玉レタスについては、9店舗中7店舗で茨城県産の取り扱いがあり、このうち茨城産のみを取り扱う店舗は3店舗、他県産地と茨城県産を取り扱う店舗が4店舗ありました。販売価格は1玉158円で売る店舗が多く、応援フェアを実施している店舗では97円から129円と安値での販売でした。その他の2店舗では、香川県産、兵庫県産を取り扱っており、価格は1玉258円でした。

サニーレタス、グリーンリーフレタスについては、3店舗が茨城県産のみを取り扱っており、1玉100～158円でした。一方、他の6店舗では福岡県産、熊本県産が1玉198円と茨城県産よりも高値で販売されていました。

はくさいについては、ほとんどの量販店で茨城県産のみを取り扱っており、1/4カット売りで98～158円で販売されていました。

こまつな、しゅんぎく、チンゲンサイについては1～2店舗で取り扱いがありましたが、他県産との明らかな価格差はみられませんでした。

ミズナについては5店舗で茨城県産のみが取り扱われていましたが、88～178円と店舗により価格差がみられました。

ピーマンについては1店舗で茨城県産のみが取り扱われていましたが、他県産と明らかな価格差はみられませんでした。

おおばについては愛知県産が4店舗、茨城県産が1店舗で取り扱われ、愛知産は概ね10枚当たり78円でしたが、茨城県産は20枚で78円となっていました。



掲示板に貼られた各県の安全宣言

### 3 まとめ

ほうれんそうは、昨年と比べて入荷量が少ないにもかかわらず、卸売価格は低めでしたが、量販店での販売価格は比較的高めでした。

一方で、東京都中央卸売市場において、茨城県産シェアの高いミズナ（昨年3月下旬の市場シェア90%）、チンゲンサイ（同76%）、ピーマン（同56%）、おおば（同32%）、にら（同29%）、こまつな（同22%）は、市場シェアの低下の影響もあり、取扱店舗数が少ない傾向にありました。なお、レタス類については卸売価格と同様に、小売価格も茨城県産が他県産を下回っていました。

以上述べました茨城県産農産物については、4月に入り市場における取扱数量の増加が見られ始めてはいますが、量販店における販売はまだ少ないため、通常どおりの販売となるまでにはしばらく時間がかかりそうです。

さて、震災以降の青果販売は、以上述べた風評被害の他に、計画停電による量販店等の営業短縮、ガソリン不足による物流停滞、各種イベント等の自粛などによる業務需要の低下に加えて、2月下旬以降の好天により入荷量が増えた果菜類を中心に安値基調となり、東京都中央卸売市場における3月下旬の野菜全体の販売単価はキロ199円（前年対比86%）、4月上旬は215円（同比73%）と例年にならない市場価格となりました。

このように今回の震災被害は、青果販売全体に影響があった点において、被災のなかった本県にとっても対岸の火事ではありません。今後、野菜需要拡大のためには、できるだけ早い原子力発電所事故の終息と東北・北関東産野菜の安全性の確保が望まれます。

東京都中央卸売市場における主な茨城産青果物の入荷量、価格動向(3月下旬～4月上旬)

品目	時期	入荷量(t)	価格 (円/kg)	前年対比 (%)			市場に占めるシェア (%)	
				入荷量	価格	販売額	本年	昨年
こまつな	3/下	32	118	51	39	20	11	22
	4/上	43	181	81	43	35	16	20
レタス類	3/下	1109	79	85	32	27	45	57
	4/上	1471	115	100	40	39	63	64
みずな	3/下	85	157	32	51	16	64	90
	4/上	126	238	49	61	30	77	89
チンゲンサイ	3/下	95	125	67	49	32	64	75
	4/上	78	178	56	55	31	62	77
おおば	3/下	6	909	55	40	22	18	33
	4/上	4	1116	33	47	16	12	32
はくさい	3/下	1320	73	103	97	100	47	55
	4/上	1447	72	96	60	58	71	80

## ミニトマトの袋培地栽培マニュアルを作成しました

農業総合試験場では平成18年に袋培地栽培システムを開発しました。現在、この栽培システムは、大玉トマト栽培を中心に全国18haに普及していますが、ミニトマトやミディトマトへも広がりを見せています。しかし、平成18年に作成された「トマト袋培地栽培マニュアル」は、大玉トマトの短期栽培（年2作型）を想定したマニュアルであり、一般的に長期栽培（年1作型）が行われているミニトマトでは異なる栽培技術が必要となります。

そこで新たにミニトマトにおける最適な袋当たりの栽植株数や施肥・かん水管理方法を検討し、「ミニトマトの袋培地栽培マニュアル」を作成しました。

## 1 袋培地栽培システムの概要と特徴

この栽培システムは、培土をつめた30Lの袋培地に作物を植え付けて栽培を行います。施肥・かん水は、生育に必要な量だけを株元に差し込んだ点滴チューブから少量ずつ行います。また、土壌病害虫の侵入を防ぐため、袋培地は、下敷きシートと隔離板により地面から確実に隔離して設置します。この栽培方法で、品質や収量の向上、土壌病害虫の回避、環境負荷の低減、作業の省力化などが実現できます。



図1 ミニトマト袋培地栽培の様子

## 2 ミニトマト栽培における最適な栽植株数

大玉トマトの短期栽培では1袋当り4株を栽植します。しかし、ミニトマトの栽培では3株で栽植する（図2）と、4株のときよりも販売できる果実の収量が10a当たり2.65t増加するとともに、品質においても差異はありませんでした。

（栽植密度が2,100株/10aの場合）



図2 袋培地とセンサ等の設置状況

## 3 ミニトマト栽培における施肥・かん水管理

施肥は、生育に適した組成の液肥を、生育状況や季節に応じて午前6時と10時の2回に分けて施します。特に、厳寒期に土壌溶液中の肥料濃度が高くなると春先に株がしおれやすくなるため、肥料濃度を計測しながら施肥量を調節します。かん水は、土壌水分センサーの制御により管理します。土壌水分の設定はミニトマトの生育や季節に応じて調節します。

以上の技術をもとに「ミニトマトの袋培地栽培マニュアル」をまとめました。本マニュアルによりミニトマト袋培地栽培における収量増加、品質の向上が期待できます。



## ミニトマトの袋培地栽培マニュアル（一部抜粋）

施肥・かん水はタイマ制御により午前6時と午前10時に1回ずつ200mL/株の設定で行います。



かん水管理は水分センサ制御により、施肥かん水1時間後より日没まで1回200mL/株のかん水を行います。かん水後30分は休止とします。

ミニトマト袋栽培における促成長期作型（8月中旬定植）に対応した施肥・かん水基準

生育段階	時期	株当たり 空索施用量	袋当たり 空索施用量	液肥原液 希釈倍率	1回当たり 給液量	土壌溶液中 EC	かん水の目安
定植	8月中旬	33.3mg	100mg	300倍	100mL/株	< 1.0dS/m	手動(1回/日)
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
第1開花	8月下旬	66.7mg	200mg	300倍	200mL/株	1.0~ 3.0dS/m	自動かん水開始(pF1.8)
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
第2開花	9月上旬	↓	↓	↓	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
第3開花	9月中旬	100mg	300mg	200倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
第4開花	9月下旬	133.3mg	400mg	150倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
第5開花	10月上旬	166.7mg	500mg	120倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
収穫開始	10月中旬	↓	↓	↓	↓	3.0dS/m	pF1.5に変更
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
暖房開始	11月中旬	100~133.3mg	300~400mg	200~150倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
	12月中旬	↓	↓	↓	↓	↓	pF1.8に変更 (12月中旬~)
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
	2月下旬 2月上旬	166.7mg	500mg	120倍	↓	↓	pF1.5に変更 (2月中旬~)
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
	3月下旬	↓	↓	↓	↓	↓	pF1.4に変更 (3月下旬~)
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
摘心	6月上旬	133.3mg	400mg	150倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
	7月上旬	100mg	300mg	200倍	↓	↓	↓
↓		↓	↓	↓	↓	↓	↓
	7月下旬	0mg	0mg	↓	↓	↓	↓
栽培終了	8月上旬					< 1.0dS/m	

液肥原液の参考：  
「ミニトマト袋培地栽培  
マニュアル」の液  
肥原液の作成※

定植後の根の  
活量を促しま  
す。

高温期は生育が早いた  
め、施肥量の増加が遅  
れないようにします。

収穫開始期から  
は収量と品質を  
両立させるため、  
ECのバランスを  
保ちます。

夏期高温対  
策のため、9  
月15日頃ま  
で、かん水時  
間帯を24時  
間に設定しま  
す

日射が強くなり、  
かん水量が増大  
すると同時に  
再び施肥量を増  
加します。

特に、最寒  
期に5.0dS/m  
を超える場合  
は、先に株  
がしおれやす  
くなるため、  
3.0dS/mを越  
える場合は施  
肥量を減らし  
ます。

摘心後は施肥量  
を徐々に減少さ  
せます。

次作の準備の  
ため栽培終了  
時にECが  
1.0dS/m未満に  
なるように施  
肥量を調整し  
ます。

栽培終了2週  
間前を目安に  
施肥を止めま  
す。

## 「花は心の癒し」東日本大震災の被災者に花を贈ろう

東日本大震災に、人災とも云える原発事故が加わって、未曾有のたいへんな状態になっています。津波で家を失い、家族を失い、そして、原発から出る放射線の故に故郷を失う、そんな人たちの悲惨な避難生活を見るにつけ、たいへん胸が痛みます。京都大学の小出裕章氏によれば、「広島原発は800gのウランを爆発させましたが、100万KWの発電能力のある原発は1年間で1トンものウランを使う」とのことです。そして、ついにチェルノブイリ並みのレベル7の状況であることが発表されました。何よりも今は、この放射能を早く閉じこめて、被害を最小限にとどめ、再び故郷に帰り農業ができる時期を早められるように、東京電力などの関係者の方々の努力に期待したいと思います。

被害に遭われた方やそのご家族の心の傷は計り知れないものがあるでしょう。この心の傷を少しでも和らげることに花き業界として何らかの貢献ができないものでしょうか。

花は、有害ガスを吸着し、二酸化炭素を吸収して空気を清浄化するという物理的な効果だけでなく、心を癒すという心理的効果が大きいと言われており、このような花の機能性に関する研究事例はずいぶん増えてきました。これをうたい文句にして、販売を促進しようとする事例も増えてきました。10年あまり前、サンセベリアがマイナスイオンを発生させるとのテレビ放送があって、サンセベリアが異常に売れたことがありました。「花」がその外見上の美しさだけでなく、その機能性の故に売れたという点でこれは大きな意味があったと思います。

被災地への支援は、まず食料や生活必需品が優先されるでしょうが、もう仮設住宅も出来始め、心のケアが重要な段階になっているとの指摘が増え始めました。鯉のぼりや絵本を贈ったり、コンサートを開催したという報道も多くなっている今、花き業界も、遅れることなく心を癒す心理的効果が大きい「花」を贈る行動に取り組んではいかがでしょうか。被災者の方が「心が癒された」と云って喜んでくださるなら、どんな研究より、どんな宣伝より、はるかに重みのある実証になります。「花の王国愛知」に相応しい取り組みではないかと思います。

また、これは消費拡大のための大きな運動になるはずです。「心が癒された」被災者の方々は、将来の花の大事なお客さんになっていただけるでしょうし、また、その波及効果は日本中に及ぶのではないのでしょうか。昨今の花き業界はたいへん苦しい状況にあり、販売価格の低迷が続き、消費は停滞気味で、すぐには価格が回復する展望も持てない状況です。さらに、大震災による自粛モードと物流の不安定な状況が加わって、混乱を深めています。この苦しいときにこそ、何らかの発想の転換を持って長期的な対策を考えねばなりません。競売が価格形成機能を失いつつある今、花き生産者は積極的に営業活動を行わなければなりません。これは国際的に見ればごく普通のことですが、我が国のこの時代背景の中で、花き業界も何らかの行動を必要としています。「花を贈る」ことで、エンドユーザーである被災者を精神的に支援し、その報道に触れた方達の気持ちを明るくすることで、自粛モードを打破し、日本を元気にできるのではと思っています。

# 愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ±2%台以内  
 やや : ±3～5%台  
 かなり : ±6～15%台  
 大幅 : ±16%以上

## ○ 名古屋中央卸売市場（品目：みつば）

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
22年実績	59	58 (98%)	308	304	静岡 (2%)
23年見通し	59	—	290	—	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>尾張を中心に水耕で周年栽培され、天候の良い春と秋に生育する。夏に高温が続くと9月や10月の入荷量が激減する。                      冬場の重油高により、ハウスの加温を制限する傾向にあるため、年々入荷量が減少してきている。                      価格はみつばの量より、ほうれん草等薬物の価格に強く影響される。</p>			<p>温暖化とファンヒーターの普及により、みつばがよく使われる煮物や鍋物商材は下降気味である。                      一方で、外食産業では、サラダ用商材が伸びてきており、みつばもサラダや冷たい料理等の新しいメニューの宣伝が必要。                      生産者は全体的に減少傾向にあるが、若手は増えてきている。</p>		

## ○ 東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入荷量 (t)		卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
22年実績	14	9 (69%)	585	656	米国 (11%) オーストラリア (9%) ニュージーランド (7%)
23年見通し	14	—	608	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>4月からは本県産の入荷が始まり、5月に出荷のピークを迎える。今年は冷え込みと干ばつの影響で例年よりやや遅れ気味の生育であるものの、品質は良好。                      入荷量は前年並が見込まれ、価格については前年をやや下回る見込み。</p>			<p>ペコロスは業務向けを中心に安定した需要はあるが、景気動向、震災の影響等、業務での需要動向が心配。近年、国内産地は数少ないため、愛知の入荷量が不安定であるとすぐに外国産が入ってくる状況であるので安定的な出荷をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋市中央卸売市場

4月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	41,890	199	207	185	207	愛知 29%
	19年	40,504	191	204	192	180	茨城 8%
	20年	40,658	191	183	200	191	北海道 8%
	21年	39,226	195	209	196	185	長崎 7%
	22年	36,281	213	235	198	209	
	5ヵ年平均	39,712	198	-	-	-	
	23年見通し	36,200	206	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知が中心。今後さやえんどうなどは福島が中心となるため、荷動きに心配がある。秋冬野菜の生育が悪く、露地野菜も低温と干ばつの影響が多きい。 入荷量は前年並みで、価格はやや下回る見込み。</p>					
だいこん	18年	2,802	91	94	69	117	愛知 83%
	19年	2,290	82	80	80	86	千葉 6%
	20年	2,411	88	85	100	82	茨城 4%
	21年	2,388	85	84	84	88	長崎 3%
	22年	2,280	89	87	90	92	
	5ヵ年平均	2,434	87	86	84	94	
	23年見通し	2,200	80	80	80	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知を中心として、千葉、茨城は終盤を迎える。春だいこんは低温と干ばつの影響により外観が悪く、売れ行きが悪い。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
にんじん	18年	2,556	172	174	167	175	徳島 82%
	19年	2,736	128	155	132	105	岐阜 12%
	20年	2,252	202	200	233	181	熊本 4%
	21年	2,950	112	142	120	88	愛知 1%
	22年	2,663	117	116	108	128	
	5ヵ年平均	2,631	143	156	149	132	
	23年見通し	2,600	170	170	170	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き産地は徳島中心。12月の播種が降雨で遅れたことと、2月からの冷え込みにより生育が遅れがでている。全体的にM玉中心で、小玉傾向にある。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

4月20日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	18年	143,667	217	226	201	225	千葉 19%
	19年	143,223	207	228	195	197	茨城 16%
	20年	141,595	218	217	227	211	佐賀 6%
	21年	137,120	222	233	218	216	神奈川 6%
	22年	134,986	225	239	212	225	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	140,118	218	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	133,000	210	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>入荷の中心は関東産地となり、土物類果菜類は西南暖地からの入荷が本格化する。厳寒期の低温・乾燥の影響から生育の品目が目立つが総体的に回復傾向。</p> <p>上旬は、入荷量がやや少なめ中旬以降は順調に推移していくものと思われる。</p>							
だいこん	18年	9,824	91	100	74	100	千葉 84%
	19年	9,302	85	84	79	90	茨城 9%
	20年	9,589	85	87	97	73	埼玉 2%
	21年	8,952	89	87	89	91	(愛知産比率 0%)
	22年	9,678	90	98	87	85	
	5ヵ年平均	9,469	88	91	85	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	9,200	85	85	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>千葉からの入荷が中心となる。生育は年明け以降の低温・乾燥の影響から若干の遅れが見られる。品質は病気の発生もなく良好である。</p> <p>全体の入荷量は多かった前年をやや下回る見込み。価格は末端需要停滞の影響で、昨年をやや下回る見込み。</p>							
にんじん	18年	7,825	182	178	177	191	徳島 69%
	19年	7,828	143	156	146	131	千葉 19%
	20年	7,486	217	203	247	200	埼玉 4%
	21年	8,427	131	151	135	108	静岡 2%
	22年	8,526	133	130	123	149	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	8,018	161	164	166	156	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	8,100	170	170	170	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>徳島と千葉からの入荷が中心となる。3月からの低温・干ばつの影響で生育にやや遅れが見られる。徳島、千葉とも回復傾向にあるものの、入荷量は前年をやや下回る。</p> <p>価格は安値であった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	18年	2,726	106	103	108	茨城 67%	
	19年	2,364	87	68	77	愛知 21%	
	20年	2,456	71	84	73	長野 12%	
	21年	2,141	115	82	81		
	22年	2,251	105	78	86		
	5ヵ年平均	2,388	96	84	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	23年見通し	2,000	85	85	85		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は茨城を中心に、他に愛知、長野。3月の低温と干ばつで生育に遅れがあったが、4月の雨や気温の上昇で遅れを取り戻しつつある。原発事故により需要と供給がともに落ち込んでおり、回復の時期については不透明。入荷量は前年よりかなり下回り、単価はやや下回る見込み。</p>					
		<p>ほうきの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>					
キャベツ	18年	4,088	105	93	111	愛知 59%	
	19年	3,735	114	109	89	茨城 20%	
	20年	4,013	82	82	60	神奈川 9%	
	21年	3,951	170	124	112	兵庫 7%	
	22年	3,525	114	99	101		
	5ヵ年平均	3,862	117	101	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	23年見通し	3,600	90	90	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は、冬の低温から産地が遅れ気味で、愛知が中心。小玉が多いが、降雨があれば玉のびする。夏キャベツの作付けは110%の見込み。5月には茨城のグリーンボールが出てくる。入荷量は前年よりわずかに上回り、単価はかなり下回る見込み。</p>					
		<p>キャベツの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>					
ほうれんそう	18年	308	478	421	509	岐阜 63%	
	19年	307	529	562	524	愛知 17%	
	20年	309	497	528	463	茨城 8%	
	21年	282	511	554	510	0	
	22年	296	506	521	473		
	5ヵ年平均	300	502	520	504	496	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	300	500	520	520	480	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は岐阜が中心で、愛知が乏しい。低温と干ばつの影響により生育が遅い。飛騨地方の生産者が減っている一方で、作付面積は増加している。入荷量、単価ともに前年並みの見込み。</p>					
		<p>ほうれんそうの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>					

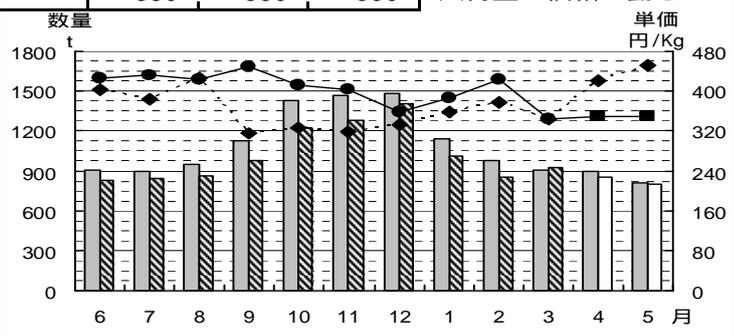
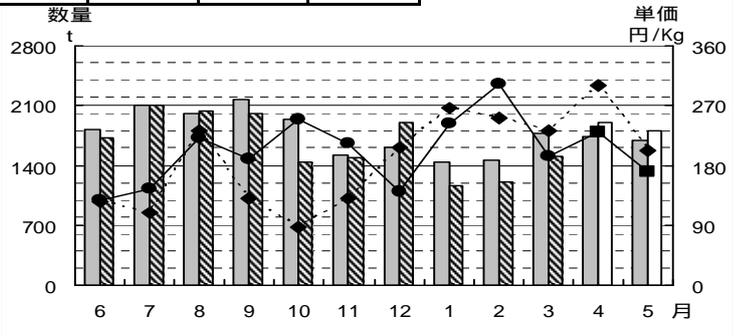
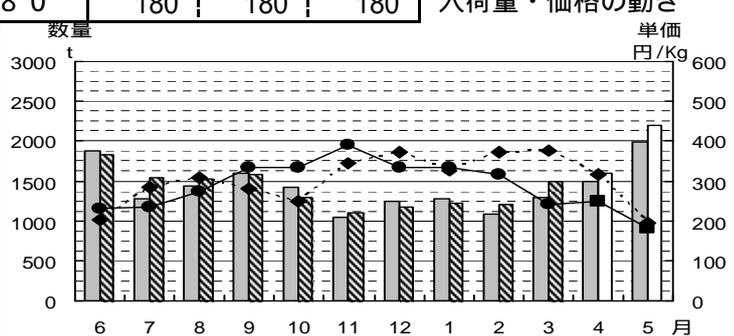
東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうきさい	18年	6,502	83	93	81	76	茨城 96% 長野 1% 鹿児島 1% (愛知産比率 0%)
	19年	5,826	52	65	42	51	
	20年	6,096	54	49	63	52	
	21年	5,749	69	89	64	57	
	22年	6,353	67	79	56	64	
	5ヵ年平均	6,105	65	75	62	60	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	6,300	50	45	50	55		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		茨城からの入荷が中心となり、長野からの入荷も始まってくる。茨城の生育は低温・干ばつの影響から、やや遅れ気味であったがここにきて適雨もあり回復。現在のところ品質に問題は見られない。入荷量は前年並みで、価格は需要停滞で前年を大幅に下回る。					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月約6,000トン、7月約5,800トン、8月約6,100トン、9月約5,700トン、10月約6,300トン、11月約5,700トン、12月約6,300トン、1月約6,300トン、2月約6,300トン、3月約6,300トン、4月約6,300トン、5月約6,300トンと変動しています。単価は6月約93円/kg、7月約65円/kg、8月約42円/kg、9月約63円/kg、10月約56円/kg、11月約79円/kg、12月約56円/kg、1月約56円/kg、2月約56円/kg、3月約56円/kg、4月約56円/kg、5月約56円/kgと変動しています。</p>					
キャベツ	18年	18,392	85	88	70	98	神奈川 40% 千葉 37% 愛知 10% 茨城 8% (愛知産比率 10%)
	19年	16,139	90	98	90	82	
	20年	16,800	72	75	84	59	
	21年	16,743	115	142	108	97	
	22年	18,886	88	92	77	94	
	5ヵ年平均	17,392	90	99	85	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	18,000	80	80	80	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		千葉、神奈川を中心とした関東産地からの入荷が中心となる。千葉、神奈川とも年明け後の低温・干ばつの影響から生10日程度の遅れが見られ、5月上旬に出荷のピークを迎える。入荷量は多かった前年をやや下回り、価格も需要停滞で前年をやや下回る見込み。					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月約18,000トン、7月約16,000トン、8月約16,800トン、9月約16,700トン、10月約18,900トン、11月約18,900トン、12月約18,900トン、1月約18,900トン、2月約18,900トン、3月約18,900トン、4月約18,900トン、5月約18,900トンと変動しています。単価は6月約88円/kg、7月約98円/kg、8月約70円/kg、9月約84円/kg、10月約59円/kg、11月約97円/kg、12月約94円/kg、1月約94円/kg、2月約94円/kg、3月約94円/kg、4月約94円/kg、5月約94円/kgと変動しています。</p>					
ほうれんそう	18年	1,845	358	401	302	387	群馬 34% 茨城 25% 埼玉 15% 岩手 13% (愛知産比率 0%)
	19年	1,548	398	393	412	391	
	20年	1,727	393	417	438	340	
	21年	1,536	427	472	391	430	
	22年	1,704	404	418	425	377	
	5ヵ年平均	1,672	395	419	392	384	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
23年見通し	1,500	400	410	400	390		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		群馬、茨城、埼玉の関東産地に加えて岩手からの入荷が始まる。震災並び原発での事故の影響で各産地とも播種作業に支障をきたしたこともあり、全体の入荷量は前年をかなり下回る見込み、需要の伸びも期待できず価格はやや下回る見込み。					
		<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月約1,800トン、7月約1,500トン、8月約1,700トン、9月約1,500トン、10月約1,700トン、11月約1,700トン、12月約1,700トン、1月約1,700トン、2月約1,700トン、3月約1,700トン、4月約1,700トン、5月約1,700トンと変動しています。単価は6月約401円/kg、7月約302円/kg、8月約387円/kg、9月約387円/kg、10月約387円/kg、11月約387円/kg、12月約387円/kg、1月約387円/kg、2月約387円/kg、3月約387円/kg、4月約387円/kg、5月約387円/kgと変動しています。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	18年	860	354	353	365	340	愛知 33%
	19年	917	347	344	337	359	鳥取 13%
	20年	876	416	414	422	412	大分 10%
	21年	907	379	392	357	390	埼玉 8%
	22年	813	453	417	472	469	
	5ヵ年平均	875	388	383	389	393	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	800	350	350	350		
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は長ねぎは愛知で、白ねぎは鳥取と九州が中心。中京地区に送る白ねぎの不足分を例年は関東産で補うが、今年は地震の影響で入荷できていない。入荷量は前年並みだが、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。						
しそ	18年	2,363	158	201	124	161	長野 41%
	19年	1,995	228	303	199	183	兵庫 36%
	20年	2,134	110	107	111	112	茨城 18%
	21年	1,903	160	181	177	124	愛知 3%
	22年	1,688	202	270	197	129	
	5ヵ年平均	2,017	169	209	158	143	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,800	170	200	170	140	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は、ゴールデンウィーク明けから長野が入荷予定で、兵庫が減少、茨城は終了する。5月中旬までは順調に入荷されるが、それ以降は半減する見込み。入荷量は前年よりかなり上回り、価格は高かった前年よりかなり下回る見込み。						
きゅうり	18年	2,316	221	166	233	276	愛知 34%
	19年	2,398	192	198	204	179	群馬 17%
	20年	2,316	221	166	233	276	埼玉 15%
	21年	2,235	172	178	165	173	宮崎 10%
	22年	1,992	195	180	200	208	
	5ヵ年平均	2,251	200	178	207	223	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,200	180	180	180	180	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は愛知が中心で5月中旬に後退する。他には九州。入荷量が多く、単価は例年よりお値打ちとなる。風評被害により今後の北関東の入荷が心配。入荷量はかなり上回り、単価はかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	18年	4,339	273	283	265	273	千葉 34%
	19年	4,461	254	273	224	262	茨城 27%
	20年	4,373	380	382	438	334	埼玉 18%
	21年	4,029	330	303	320	362	中国 8%
	22年	3,629	374	345	374	398	(愛知産比率 0%)
5カ年平均	4,166	320	316	322	322	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
23年見通し	3,800	290	240	290	350		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉などの関東産地からの入荷が中心。関東産地は、天候不順、日照不足、低温の影響によりやや遅れがみられたが、回復傾向にある。品質は病気の発生もなく良好。入荷量は、少なかった前年をやや上回り、価格は高値で推移した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しゅうた	18年	7,984	150	176	120	159	茨城 48%
	19年	7,054	202	266	177	164	長野 29%
	20年	8,339	104	97	110	107	群馬 12%
	21年	7,857	139	159	149	115	兵庫 4%
	22年	7,205	184	269	173	127	(愛知産比率 0%)
5カ年平均	7,688	154	189	144	134	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
23年見通し	7,200	130	150	140	130		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城などの関東産地に加えて長野からの入荷が始まる。関東産地、長野とも天候不順、日照不足、低温の影響で約1週間遅れている。連休中に谷間があるが、その後増加が見込まれる。入荷量は前年並を見込み、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅう	18年	8,224	227	183	240	266	埼玉 35%
	19年	8,701	207	220	207	195	群馬 21%
	20年	8,368	200	195	276	155	茨城 13%
	21年	8,776	181	185	180	178	千葉 12%
	22年	8,118	201	191	204	208	(愛知産比率 0%)
5カ年平均	8,437	203	195	221	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
23年見通し	8,200	200	210	200	190		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。千葉、埼玉は、日照も多く、生育は順調である。群馬は低温の影響があるものの生育は順調で各産地とも平年並みの入荷が見込まれる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	18年	1,292	275	285	230	316	愛知 44%
	19年	1,471	255	289	248	229	熊本 40%
	20年	1,389	279	275	281	280	宮崎 10%
	21年	1,352	244	258	241	236	高知 4%
	22年	1,343	290	342	282	252	
	5ヵ年平均	1,369	268	290	257	262	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,400	240	240	240	240	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は愛知、熊本を中心に、他に宮崎。日照量が多かったため、生育は順調。気温の上昇により熟れもついてきてほしい。入荷量はやや上回り、単価は大幅に減る見込み。						
ト	18年	1,858	254	326	193	259	熊本 38%
	19年	2,090	222	262	199	207	愛知 33%
	20年	1,849	235	250	237	218	三重 16%
	21年	1,678	294	329	315	249	岐阜 9%
	22年	1,710	260	321	235	235	
	5ヵ年平均	1,837	251	296	233	233	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,800	250	260	250	240	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本、愛知、三重、岐阜が中心。低温の影響で生育がやや遅れているが、着果は順調。気温が今後上昇すれば、消費は増す見込み。入荷量はやや上回り、単価はやや下回る見込み。						
ミニ ト	18年	395	479	545	433	457	熊本 53%
	19年	431	467	503	466	434	愛知 39%
	20年	443	454	463	436	459	和歌山 7%
	21年	368	586	604	639	535	
	22年	390	556	649	519	494	
	5ヵ年平均	405	505	549	495	474	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	420	465	500	450	425	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本、愛知、和歌山が中心。生育は良好で、入荷も順調。例年は行楽シーズンで消費が増えるが、今年は震災の影響で荷動きが悪い。入荷量はかなり上回り、単価は大幅に下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

「なす」の数値には「べいなす」を含まない。

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	18年	4,819	307	308	272	347	高知 44%
	19年	5,234	275	308	266	254	福岡 19%
	20年	4,581	335	337	358	319	群馬 10%
	21年	4,784	281	315	271	266	佐賀 5%
	22年	4,435	310	357	288	289	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	4,771	301	324	290	294	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	4,400	310	310	310	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を始めとする西南暖地中心の入荷となる。高知は、日照量の増加、気温の上昇から生育は順調であるが下級品の発生比率がやや高まる。福岡はやや冷え込みが残るものの概ね順調。 入荷量は前年並で、価格についても前年並の見込み。</p>					
ト マ ト	18年	9,411	282	337	234	280	栃木 20%
	19年	10,056	251	290	212	249	熊本 18%
	20年	9,149	270	284	287	246	茨城 12%
	21年	9,022	328	373	354	277	愛知産 12%
	22年	8,546	299	331	277	293	(愛知産比率 12%)
	5ヵ年平均	9,237	285	322	271	268	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	8,800	280	290	260	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地と熊本からの入荷が中心となり引き続き本県からの入荷もある。栃木で一部灰色かび病の発生があるものの、各県産地とも病害虫の影響もなく生育は順調である。 入荷量は前年をやや上回り、価格はかなり前年を下回る見込み</p>					
ミ ニ ト マ ト	18年	1,376	449	491	403	452	熊本 32%
	19年	1,501	434	498	415	392	愛知 28%
	20年	1,505	428	424	423	435	千葉 14%
	21年	1,327	545	556	603	494	宮崎 9%
	22年	1,440	529	632	482	478	(愛知産比率 28%)
	5ヵ年平均	1,430	475	519	463	449	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,550	420	420	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉、宮崎等からの入荷となる。各県産地とも厳寒期の低温により遅れがあるが、気温の上昇とともにゴールデンウィークを中心に潤沢な出荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

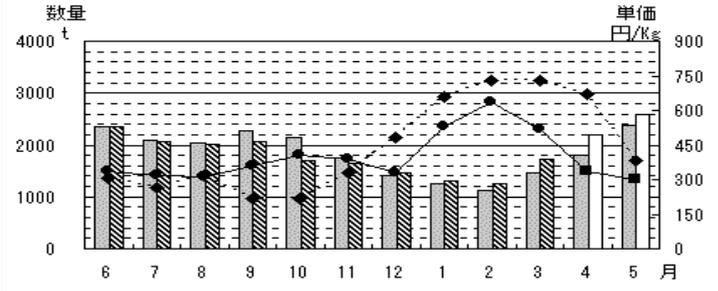
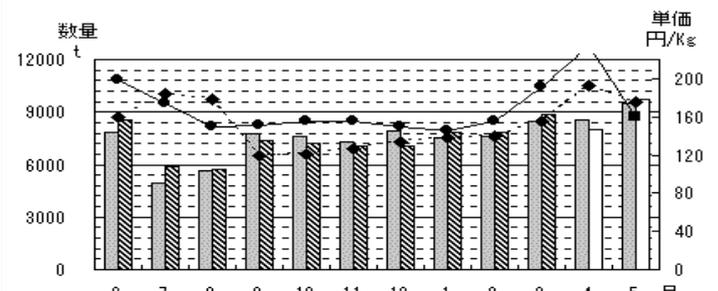
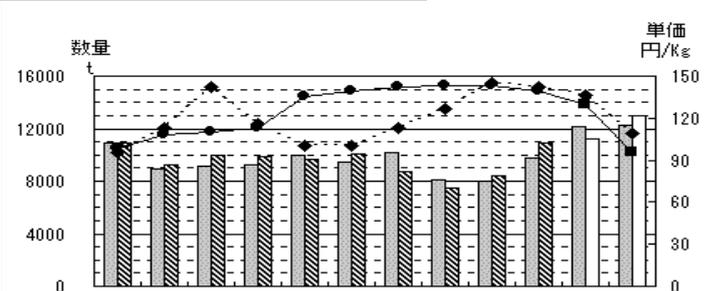
名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	886	281	346	247	265	宮崎 36%
	19年	891	253	332	259	195	鹿児島 25%
	20年	818	296	366	289	254	高知 19%
	21年	819	251	333	215	217	
	22年	764	347	540	293	265	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	836	284	380	260	239	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	800	300	300	250	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>4月と同様に、主な産地は宮崎、鹿児島、高知。5月後半には九州の産地が終了し、例年は茨城に替わるが、震災の影響で入荷量は不明。 ピーマンの価格は安くなっている。 入荷量は、前年よりやや上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	18年	4,956	126	140	125	118	長崎 65%
	19年	4,349	115	141	119	92	鹿児島 28%
	20年	4,374	120	112	121	129	北海道 4%
	21年	4,399	128	143	139	113	
	22年	3,339	175	191	158	183	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	4,283	131	143	131	124	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	3,300	190	200	180	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎は生育に遅れがあり、5月中旬から出てくる。鹿児島は5月半ばまでの入荷。北海道は加工物、熊本はメークインが中心。鹿児島は低温・干ばつのため植え付けに遅れがでて、玉つきが少なく、小玉傾向。入荷量は前年並みで、単価は高かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
たまねぎ	18年	6,011	72	75	71	69	愛知 49%
	19年	5,827	47	55	44	41	北海道 33%
	20年	6,502	55	57	54	55	兵庫 13%
	21年	5,828	73	68	76	76	佐賀 3%
	22年	5,767	87	100	83	80	
	5カ年平均	5,987	67	71	65	64	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	5,500	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知、北海道、兵庫が中心。愛知は低温・干ばつで生育は2週間程度の遅れがあり、出荷は5月末頃がピーク。荷動きは良好。 入荷量はやや下回り、単価は高かった前年をわずかに下回る。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	18年	2,680	339	365	301	354	茨城 76%
	19年	2,803	296	368	246	268	宮崎 10%
	20年	2,463	352	387	383	303	高知 8%
	21年	2,681	291	338	301	247	鹿児島 5%
	22年	2,368	384	519	346	317	(愛知産比率 -%)
マ	5カ年平均	2,599	330	392	313	297	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	2,600	300	290	300	310	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		茨城からの入荷が中心となる。茨城は一部に病気がみられるものの好天で生育順調、高知も良好で、順調な入荷が見込まれる。 全体の入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。					
ばれいしょ	18年	10,917	128	133	120	132	長崎 53%
	19年	10,608	116	128	121	101	鹿児島 22%
	20年	10,697	121	118	117	127	北海道 18%
	21年	9,902	142	137	140	150	
	22年	9,484	175	174	158	197	(愛知産比率 -%)
い	5カ年平均	10,322	135	137	130	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	9,700	160	180	160	140	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		九州産地からの入荷が中心となる。長崎は低温の影響で発芽の不揃い等があり現況2週間の遅れがある。鹿児島の生育も同様で小玉傾向である。入荷量が増えるのは5月中旬以降となる見込み。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。					
たまねぎ	18年	15,212	84	90	84	80	佐賀 62%
	19年	15,768	53	56	55	49	兵庫 9%
	20年	15,162	72	70	70	76	北海道 8%
	21年	12,412	99	97	97	102	千葉 6%
	22年	12,218	109	126	104	99	(愛知産比率 1%)
ね	5カ年平均	14,154	81	86	80	79	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	13,000	95	100	85	90	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		佐賀からの入荷が中心となる。佐賀は厳寒期の低温の影響で生育は遅れ気味で推移している。兵庫も干ばつが続いて遅れあるものの京浜への出荷は例年通り5月10日頃となる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果	18年	11,996	319	331	312	313	熊本 29% フィリピン 23% 青森 11% アメリカ(合) 9%
	19年	11,868	338	351	337	327	
	20年	11,202	320	317	310	331	
	21年	10,647	312	323	305	310	
	22年	9,766	321	325	321	316	
	5カ年平均	11,096	322	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	9,900	300	-	-	-	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本、フィリピン、青森が中心。すいか、メロン類の入荷が中心となり、いちごは終了する。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る。						
その他メロン(アールスメロン以外)	18年	1,414	360	361	358	300	熊本 63% メキシコ 21% 愛知 6% 0 0%
	19年	1,684	311	312	279	270	
	20年	1,482	327	349	313	321	
	21年	1,197	325	404	345	273	
	22年	1,002	363	418	379	314	
	5カ年平均	1,356	335	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,000	350	400	380	330	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本、茨城が中心。大玉傾向で、LAか2Lが多い。作付け面積は減っており、茨城は5%少ない。茨城などの東北地方に震災の影響が出ると、物流が変わる可能性がある。入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。						
すいか	18年	2,232	208	218	208	199	熊本 94% 愛知 5%
	19年	2,031	207	216	218	192	
	20年	2,096	206	217	208	193	
	21年	1,950	212	225	217	195	
	22年	1,770	209	218	208	202	
	5カ年平均	2,016	208	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,800	210	210	210	210	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	産地は熊本中心。ハウスものの開花が2週間程度遅れていることに伴い、生育も遅れ気味。入荷量は潤沢で、4月下旬から5月中旬までである。入荷量、価格ともに前年並み。						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果 実 計	18年	34,747	346	372	336	335	熊本 24%
	19年	31,355	386	409	377	374	フィリピン 15%
	20年	32,321	355	357	352	356	青森 13%
	21年	33,700	329	353	331	308	愛媛 8%
	22年	30,129	347	362	343	338	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	32,450	352	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	33,000	320	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>すいか、メロン、りんご中心におうとう、みかんなどハウスものが入荷する。ハウスみかんは愛知産が減少、佐賀産と大分産の入荷が増加する見込み。すいか、露地メロンは不作だった昨年を上回る予想。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ア ン デ ス メ ロ ン	18年	1,272	439	527	454	400	茨城 57%
	19年	1,655	409	396	397	425	熊本 42%
	20年	1,154	437	434	449	432	鹿児島 1%
	21年	1,202	377	478	482	304	0%
	22年	659	474	475	490	460	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	1,188	422	457	447	400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	1,200	425	440	420	415	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>主力産地が熊本から茨城に移行する。茨城は平年並みの着果、玉肥大であり、不作だった昨年を上回る見通し。熊本は3月以降の好天で生育は平年並みに回復し、上旬がピークとなりそうである。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
す い か	18年	6,415	227	248	222	216	熊本 82%
	19年	6,841	230	243	235	217	茨城 7%
	20年	6,571	227	239	231	216	千葉 6%
	21年	7,086	224	253	234	198	群馬 4%
	22年	5,606	236	253	228	228	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	6,504	229	247	230	214	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	23年見通し	6,500	220	235	220	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本中心に茨城、千葉から入荷する。熊本は平年並みの肥大で、不作だった昨年を上回る見通し。千葉は生育が遅れた分、下旬にかなり出回る見込み。茨城、群馬の小玉スイカも大玉同様、昨年を上回る予想。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	19年	2,727	39	
		20年	2,685	43	
		21年	3,444	27	
		22年	2,079	44	
		4ヶ年平均	2,734	37	
	23年見通し	2,500	40		
概要	愛知を中心に、三重、沖縄等から入荷。4月に入ってからの寒さにより、全体では5月までやや遅れがあり、中旬以降は安定した入荷量となる見込み。沖縄も黄大中心で出荷があるが5月一杯までは潤沢な出回り。地物も遅れていた黄大「精明」「光明」「精祝」等が出てくる。全体での出荷は前年並みで極端な増加はみられない。				
小 ぎ	実績	19年	1,457	20	
		20年	1,413	23	
		21年	1,195	24	
		22年	819	33	
		4ヶ年平均	1,221	24	
	23年見通し	1,000	30		
概要	愛知、沖縄、奈良から入荷。沖縄も中旬くらいまでであるが、気温が上昇してきているので品質にやや不安も残る。愛知（地物）はまだ丈も短く上位等級はまだ見込めそうにない。奈良県産は寒さの影響で下旬あたりから出てくるが、短幹物で長いものはまだ先になる見込み。全体の入荷は依然沖縄中心だが、昨年並みの出荷が予想される。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	19年	1,998	47	
		20年	1,970	42	
		21年	1,819	42	
		22年	1,749	34	
		4ヶ年平均	1,884	42	
	23年見通し	2,100	35		
概要	愛知、長野、和歌山等から入荷。スタンダードは例年並みではあるが、母の日が今年は早いということで、早期の予約も多く、堅調な相場で推移していく。スプレーは年明けから少し遅れ気味だが、母の日には潤沢にでてる。その後も残るため苦しい展開が予想される。				
か す み	実績	19年	336	57	
		20年	336	56	
		21年	271	62	
		22年	214	70	
		4ヶ年平均	289	60	
	23年見通し	260	60		
概要	和歌山、高知、熊本から入荷。前半は母の日需要もあり、アルタイル中心に引き合いは強く、下位等級は特に動きがある。母の日過ぎは業務需要の動きに左右され、気温の上昇とともに産地で価格差もでてる。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	19年	454	149	
		20年	483	135	
		21年	383	156	
		22年	359	159	
	4ヶ年平均	420	149		
23年見通し	430	155			
概要	高知、埼玉、岐阜、愛知、静岡からの入荷に加え、新潟からの入荷も増える見込み。3,4月の低温と震災の影響で出荷が遅れており、母の日需要に間に合わない所があることが予想される。LA系、透かしゆりは順調に入荷。母の日明けのオリエントルの入荷量で価格も不安定。鉄砲ゆりは少なめの入荷で業務中心に動き、価格も安定する見込み。				
洋らん	実績	19年	328	88	
		20年	414	76	
		21年	302	88	
		22年	396	67	
	4ヶ年平均	360	79		
23年見通し	400	70			
概要	愛知、鹿児島、静岡、徳島等と輸入物が入荷。3,4月と苦しい展開だったが、一応の落ち着きが予想される。母の日に向けて、若干の引き合いが出てくると思われる。後半は保合市況で推移する見込み。				
ばら	実績	19年	1,092	69	
		20年	1,129	67	
		21年	1,150	67	
		22年	1,000	69	
	4ヶ年平均	1,093	68		
23年見通し	1,150	70			
概要	愛知、岐阜、三重、和歌山中心に入荷。高冷地も始まり、十分な量が期待できる。前半は母の日需要、ブライダルの引合い等で堅調な動きが期待されるが、大型連休、震災の影響もあり、価格はやや抑えめの予想。				
枝も	実績	19年	1,366	42	
		20年	1,321	43	
		21年	1,269	43	
		22年	1,589	39	
	4ヶ年平均	1,386	41		
23年見通し	1,750	40			
概要	愛知、岐阜、静岡が中心となるが、山取りが多く出始める。前半は母の日需要で芽物はいい動きが予想されるが、後半は鈍くなる見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラダ	実績	18年	60,952	624	
		19年	36,723	748	
		20年	47,060	647	
		21年	44,063	533	
		22年	44,317	500	
	5ヶ年平均		46,623	607	
	23年見通し		44,000	480	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。花色でピンク系の発色のよいものは引き合いが強いと予想。鉢サイズは5号鉢が大半を占める。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位長野県(36.8%)、2位愛知県(23.0%)、3位新潟県(16.8%)となっている。</p>				
ファレノブシ	実績	18年	81,660	2,189	
		19年	61,149	2,507	
		20年	64,381	2,266	
		21年	52,823	2,145	
		22年	50,638	2,252	
	5ヶ年平均		62,130	2,270	
	23年見通し		50,000	2,000	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。大輪、小中輪系の入荷となる。</p> <p>小中輪系は、小奇麗で手頃なものに引き合いが強いと予想。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(62.3%)、2位静岡県(7.6%)、3位熊本県(6.0%)となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	18年	137,089	292	
		19年	93,180	369	
		20年	119,144	378	
		21年	83,350	397	
		22年	95,354	362	
	5ヶ年平均		105,623	354	
	23年見通し		95,000	350	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。中大輪系、絞り咲き、複色系の品種ものは引き合いが強いと予想。反面、仕立てものは弱めか。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(48.8%)、2位岐阜県(31.6%)、3位三重県(4.8%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドロランジア	実績	18年	91,436	702	
		19年	113,369	731	
		20年	144,634	765	
		21年	190,684	700	
		22年	216,332	669	
	5ヶ年平均	151,291	708		
	23年見通し	151,291	708		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。複色系、オリジナル等の新品种のものは引き合いが強いと予想。反面、定番ものであるピンク、ブルーの玉ものは弱めか。単価的に手頃なものに引き合いが強いと予想。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(69.3%)、2位群馬県(8.8%)、3位埼玉県(5.9%)となっている。</p>				
スパティ	実績	18年	52,604	347	
		19年	43,811	334	
		20年	49,838	280	
		21年	38,033	243	
		22年	50,241	258	
	5ヶ年平均	46,905	294		
	23年見通し	50,000	240		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。入荷はPOTから6号鉢までは微増だが、7号鉢以上は微減か。</p> <p>母の日明けは、需要は激減し、厳しい動きとなりそう。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重県(52.6%)、2位愛知県(35.5%)、3位岐阜県(6.8%)となっている。</p>				
カーネーション	実績	18年	444,444	412	
		19年	424,904	460	
		20年	433,670	472	
		21年	366,430	466	
		22年	370,288	450	
	5ヶ年平均	407,947	451		
	23年見通し	370,000	420		
概要	<p>入荷量は昨年並みか。母の日需要が中心であるが、震災の影響が少なからずあると思われる。花色で複色、オレンジ系や芳香性のものは、引き合いが強いと予想。反面、定番の赤、ピンクは弱めか。鉢サイズ別では、3~4号鉢の小鉢の引き合いが強く、5号鉢は弱めか。</p> <p>昨年5月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知県(39.9%)、2位茨城県(24.6%)、3位福島県(10.0%)となっている。</p>				

# 主要農林水産物の輸出入実績(2011年)

## 1 輸入実績

品名	2月						2月までの累計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	86,452	131.1	7,681,793	116.0	89	88.5	157,357	136	13,936,152	119	89	87.5
トマト	160	38.5	50,960	34.4	319	89.2	307	46	100,411	42	327	91.9
たまねぎ	37,302	132.5	1,805,968	130.4	48	98.4	78,161	151	3,672,960	152	47	100.6
にんにく	1,151	89.1	260,405	137.9	226	154.7	2,549	83	575,636	126	226	151.8
ねぎ	4,227	116.3	359,273	116.8	85	100.4	7,816	121	708,896	123	91	102.2
ブロッコリー	2,561	97.6	468,058	119.7	183	122.6	4,259	99	757,912	110	178	111.7
結球キャベツ	4,124	281.3	143,209	281.5	35	100.1	5,549	305	193,431	298	35	97.7
にんじん・かぶ	5,489	472.7	253,985	464.2	46	98.2	8,496	411	404,671	452	48	110.2
ごぼう	3,096	135.1	258,069	207.2	83	153.4	5,476	106	461,049	174	84	163.8
えんどう	163	42.7	48,577	52.7	299	123.5	247	42	71,603	49	290	116.9
アスパラガス	2,237	115.7	995,092	115.7	445	99.9	3,605	119	1,723,513	114	478	96.0
まつたけ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
しいたけ	821	99.1	216,658	106.2	264	107.1	1,447	90	375,098	94	259	104.9
かぼちゃ	19,385	115.1	1,137,099	106.8	59	92.8	28,929	112	1,770,883	106	61	95.2
果実(生鮮・乾燥)	130,599	95.8	12,757,435	93.6	98	97.7	249,856	99	24,534,529	97	98	98.8
バナナ	80,163	99.7	4,607,238	93.1	57	93.4	155,735	101	8,694,249	96	56	94.3
パイナップル	10,205	146.5	568,245	138.9	56	94.8	19,594	124	1,086,304	120	55	96.9
レモン	2,950	70.1	329,414	58.9	112	84.0	6,854	87	769,431	75	112	86.5
オレンジ	8,259	98.4	774,358	99.8	94	101.5	11,678	88	1,130,180	90	97	102.6
グレープフルーツ	12,706	64.5	1,255,879	60.1	99	93.2	23,273	75	2,300,334	69	99	92.0
メロン	2,112	89.3	232,759	85.3	110	95.4	5,217	99	535,732	94	103	94.7
ぶどう	775	60.7	155,452	68.2	200	112.3	975	67	211,576	77	217	114.6
キウイ	201	-	39,006	-	194	-	201	59,920	39,006	14,184	194	23.7
いちご	7	102.8	5,613	137.4	810	133.6	10	71	8,529	88	826	124.6
切花(生鮮・乾燥)	2,853	109.0	2,131,339	116.6	747	106.9	5,671	103	4,200,776	109	741	106.1
鳥獣肉類	138,542	113.9	59,855,594	121.1	432	106.3	276,878	114	117,739	0	0	0.1
牛肉(くず肉含む)	36,956	111.5	15,182,948	118.3	411	106.1	73,247	119	29,350,914	120	401	101.2
豚肉(くず肉含む)	62,651	120.3	32,785,141	120.2	523	99.9	120,370	111	62,985,831	111	523	100.0
鶏肉	32,856	103.2	8,174,051	124.2	249	120.3	70,162	115	17,401,939	141	248	123.0
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	113,298	89.2	64,083,620	107.1	566	120.1	262,977	99	141,436,925	113	538	114.5
まぐろ類	15,811	108.8	16,188,107	154.0	1,024	141.5	31,606	107	27,953,123	139	884	129.0
さば・さんま・あじ・いわし	6,106	95.9	983,154	96.0	161	100.2	17,698	80	3,014,696	85	170	106.8

## 2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	1,887	83.4	570,162	86.8	302	104.1	8,807	75	2,869,177	85	326	113.7
うんしゅうみかん	31	58.2	15,579	94.6	496	162.4	132	67	85,065	115	647	171.9
りんご	1,805	84.4	479,996	87.1	266	103.2	8,454	74	2,527,519	81	299	109.5
なし	2	40.9	1,292	55.7	614	136.2	21	50	8,523	48	408	97.0
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	205,812	123.1	-	-	-	-	390,606	107	-	-
緑茶	181	119.1	342,820	124.6	1,896	104.7	338	105	601,397	101	1,780	96.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 <span style="font-size: small;">(全国 平成17年 = 100)</span> <span style="font-size: x-small;">(愛知県 平成17年 = 100)</span>				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	21年平均	100.3	103.3	98.9	105.6	104.4
	22年10月	100.2	127.5	121.8	103.4	101.7
	11月	99.9	121.1	110.0	103.6	101.8
	12月	99.6	107.3	109.8	103.7	102.8
	23年 1月	99.4	112.4	113.0	104.0	103.0
	2月	99.3	116.3	107.4	103.7	100.9
愛 知 県	21年平均	100.9	100.6	100.0	102.4	103.6
	22年10月	99.8	118.7	109.9	100.2	97.0
	11月	99.6	113.8	104.5	103.1	96.6
	12月	99.2	98.9	105.3	102.6	97.1
	23年 1月	99.0	104.6	115.8	102.5	97.9
	2月	98.9	106.8	107.9	100.5	95.1

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	21年平均	95.7	98.0	100.7	91.5	98.5
	22年10月	103.3	89.8	128.6	114.0	100.0
	11月	110.2	87.7	139.2	154.8	99.5
	12月	100.8	87.3	108.0	141.0	104.0
	23年 1月	102.2	85.6	116.4	134.4	99.1
	2月	105.1	85.6	126.4	134.1	102.3

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種「コシ加」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
21年平均	2,236	158	172	603	419	313	142	314	203	510	615	201	447
22年10月	1,895	176	209	845	711	311	179	379	238	567	882	172	-
11月	1,845	281	210	795	480	358	193	383	261	665	761	167	492
12月	1,810	168	147	666	364	331	122	340	294	553	577	159	470
23年 1月	1,835	168	140	736	466	328	120	302	316	644	575	178	471
2月	1,827	203	163	722	644	321	136	305	316	583	556	165	494
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg			100g	1 kg		100g	1 本			100g		
21年平均	604	312	382	143	254	682	603	162	166	326	223	752	479
22年10月	547	321	402	-	220	762	559	155	167	296	225	723	403
11月	504	317	376	-	202	729	556	154	167	297	230	820	408
12月	525	350	385	169	203	764	558	149	169	331	213	865	399
23年 1月	672	328	392	163	214	822	540	148	151	296	214	861	414
2月	699	319	382	151	217	842	544	145	160	294	211	744	396

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 455  
平成23年5月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417